

平成28年度 鳥取県西部地区中学校学びの共同体研究会 実施レポート

期日 平成28年11月18日(金)

会場 大山町立大山中学校

◎ 研究テーマ 「学びの共同体」(協同的な学び)の理論と実践

◎ 指導助言者 学びの共同体研究会 スーパーバイザー 馬場宏明 先生

1. 打ち合わせおよび授業参観(9:55~12:45)

2. 授業参観後の指導助言(13:30~14:10)

3. 研究授業(14:20~15:10)

2年理科(エネルギー分野)「電流の性質」(学習指導案は別紙)

◎ 授業参観の視点(参観者は、生徒に話しかけない、机間を歩き回らないで参観する。)

① 「グループ学習(学習班)」での学び合い

- ・ 1人1人の学びの様子。関わり合いの様子。

(班の担当を決めて参観。あとの協議で報告の時間の確保。)

② 「言語活動」の充実を図る指導内容

- ・ 考え方や理由をまとめたり、筋道を立てて説明したりする学習活動をどう設定したか。

(学習班やコの字型での学習活動)

③ 「課題の提示」

- ・ 「共有課題」「ジャンプ課題(発展的課題)」の2段階の課題設定の質・内容と、教師の課題提示の仕方はどうだったか。

4. 研究協議および指導助言(15:20~16:45)

(1) 大山中学校の取り組みの説明

(2) 授業者の自評

(3) 授業観察者報告

各学習班の観察を担当した職員から、授業中の生徒の様子について報告

(4) 指導助言

授業の始まりを大切にす。授業の始まりの早い時間で課題に入り、グループの形をつくる。すべての生徒を学びから逃がさないためである。教師の説明の時間が長いと生徒は学びから逃げてしまう。また、グループの形をつくる時間が遅くなると、課題に取り組むことをあきらめてしまう生徒が出てくる。一度、授業から逃げてしまった生徒や、課題への取り組みをあきらめた生徒は、その授業の時間内に授業にもどってくることは難しい。その点で、今日の授業では、課題を提示する時間もグループの形をつくる時間も適切であった。また、グループは個人の学び、考える場所として使っていくのであるが、今日の授業では、グループの形をつくったときに、「まず自分で考えよう」と声をかけ、グループでの学習の約束を確認できていたことも良かった。

学びは民主的な関係が成立したときに起こるものである。その点において、生徒が「わからない」と発信できることが重要になる。黙っていると、学びから逃げているのか、考えているのか判断できないことがある。このクラスには、2学期途中から転入した生徒がいるようだ。この生徒は、学習に苦手意識を持っているとのことだったが、「わからない」とグループのメンバーに言っている様子が見られなかった。この生徒は、自分がわからないことを知られたくないという思いがあることが予想される。そのことを隠すために、グループのメンバーに何も言えないのだと思う。この生徒に限らず、学習が苦手な生徒が、グループのメンバーに「わからない」と言える関係や教室環境をつくっていくことが、このグループ学習に取り組む上ではとても大切なことである。教師は、学習を苦手としている生徒のところへ何度も行って、アドバイスをすることは控える。生徒は教師が何度もアドバイスに来ることは嫌である。苦手な生徒への関わりは、グループのメンバーに任せられるようにする。

課題の説明は生徒にさせる。生徒が説明した後に、教師がまとめることは避けなければならない。教師は生徒の発言や考えをつなげることを大切にする。生徒にさせることを通して、完全な理解者にしていくことを目指していく。説明した生徒は、クラスメイトが「わかった」と言ってくれることで喜びを味わうことができる。この喜びを多くの生徒が味わうことができるようにしていく。そのためにも、説明をする生徒は挙手ではなく指名していく。指名する際には、グループのメンバーのサポートにより「課題の解決方法がわかった」という生徒を中心に指名していく。そのような生徒にこそ、説明した後の喜びを味わわせていく。

今日の授業で扱った「電流の性質」は、多くの生徒が苦手意識を感じる内容である。その内容の理解を支援するために、電圧・電流・抵抗の関係を図に表し思考を進めていったことは良かった。共有課題、ジャンプ課題ともに課題の設定は適切であった。生徒が説明する際に回路図を利用して説明していたが、複数の生徒が1枚の回路図に記入しながら説明をしていたため、図がわかりにくくなってしまった。説明のための大きな回路図を準備するか、何枚かの回路図を準備しておくことが必要だったのではないか。しかし、授業者は今日の授業のためによく準備をしており、「学びの共同体」（協同的な学び）の理論のもとに、実践しようとしている姿が感じられとても良かった。

今回の授業研究会には、校区内の小学校の先生方にも多く参加していただいた。授業参観や指導助言を通して、中学校が目指している方向性を理解していただく良い機会となったようにも感じている。このような機会を通して、小・中で連携した取り組みへと深めていくことも今後の目標としていきたい。